

和田塚から甘繩神明宮へ向かうとき突然路地に入り狭い道をくねくねと歩くと江の島電鉄の和田塚駅の横に出る。その線路を横切りようやく広い道に出る。

細い路地



和田塚駅



駅の横、線路を横断



こんな路地を通して

甘繩神明宮

足達藤九郎盛長屋敷跡

この神明宮は天照大神を祀るお宮である。和銅年間に近くに住む豪族、染谷太郎太夫時忠が建てた鎌倉で一番古い神社といわれ、長谷の鎮守とされてきた。源頼義が相模守となりこの神社にお詣りした後、義家が生まれしたので、この神社のご神体は義家の守り神となったそうである。後に義家が社を再建したともいわれ、源氏と縁の深い神社であったと思われる。鎌倉時代の記録には頼朝や政子、実朝らがお参りしていることや、この神社が伊勢別宮と呼ばれていることが残されている。



甘繩神明宮鳥居



甘繩神明宮



北條時宗公産湯の井

盛長は、源頼朝が旗揚げする前からの下臣で、石橋山の合戦に頼朝が敗れて房州に逃れた時も一緒だった。頼朝が鎌倉に居を構えたとき、西の押さえとしてこの地甘繩に屋敷を与えられた。鎌倉幕府の樹立に尽力し頼朝に重用され、頼朝・政子が甘繩神明宮に参詣した折にはこの屋敷に立ち寄った。頼朝亡き後頼家の時代十三人の合議制のメンバーにも

加わり、和田義盛と共に梶原景時弾劾の急先鋒であった。盛長の子景盛は、頼朝の時代から父と共に仕え幕府創業に功があり頼朝の寵をうけた。実朝將軍のとき、出羽介となり秋田城介と称した。それ以後秋田城介は安達家の世襲職となった。実朝が暗殺されたとき、出家して高野山に入つて高野入道と呼ばれたが、娘(松下禅尼)が三代執権泰時の嫡子時氏の室で、経時・時頼の外孫に当たる二児が泰時の死後、二人続いて執権となったため、景盛の幕府における権勢は大いに高まった。景盛の嫡子義景も、父の出家後秋田城介となり千二百三十九年評定衆に列して幕政に参加する。執権経時・時頼の時代になると、義景は常に幕政の中枢に参加し秘密会議にも参加していた。

この頃北條氏と比肩し得る唯一の豪族である三浦氏が、名越光時の謀反に加担したとして、景盛・義景そしてその子泰盛等と北條時頼の連合軍が三浦氏を討滅する。(宝治合戦)泰盛は二十五歳で評定衆となり十年後には、將軍宗尊親王廢立の重要秘密会議に参加する程になっていた。泰盛は執権政村・時宗・貞時の三代に亘つて幕府内で権勢を維持した。時宗の室は、泰盛の娘(養女)時宗死後の覚山尼で貞時の母である。泰盛が権勢を振るっていた弘安年間、幕政が執権政治から得宗専制に移つて行つた時代で、得宗被官の勢力が台頭して来た時代であった。時宗の死後泰盛の外孫貞時が十四歳で執権職を継いだ。当時内官領であった平頼綱の権勢が盛んであり、必然的に泰盛と対立した。弘安八年十一月、抗争は戦鬨となり、結果は平頼綱の勝利に終わった。結局貞時は五十五歳の祖父を攻め一族の多くを討ち滅ぼしたのである。(霜月騒動)この後平頼綱の権勢は大いに上がったが、後に平禅門の乱で貞時に滅ぼされる。足達家はその後泰盛の弟頭盛の孫の足達時頭が秋田城介

に補任され、鎌倉時代の末まで命脈を保った。



長谷寺からの展望

長谷寺

(長谷観音)

本尊の十一面観世音菩薩は伝承によると奈良の長谷寺と同じ、一本の楠の霊木より彫られたという縁起をもっている。高さ九・一八メートルは日本最大で、錫杖を右手に執り岩座(金剛宝盤石)に立つ尊容は長谷寺に祀られる十一面観音特有の姿として「長谷寺式」と呼ばれています。撮影禁止で写真は撮れませんでしたが、境内には、弁天堂、地藏堂、稻荷社、観音堂、阿弥陀堂、大黒堂、経蔵などの堂宇が建っている。古来より坂東三十三観音霊場の四番札所に数えられ、多くの信仰を集めてきた。



稲荷社



経蔵(輪蔵)



千体地藏尊



地藏堂



長谷寺山門

まつわる伝承によると、海に漂う観音像は、尊体に付着した「かきがら」の導きにより当地に流れ着いたと伝えられています。祭神は当初「荒神」でありましたが、後年、その由緒をもって稲荷社として再興された当社は、観音像の漂着した六月十八日を御縁日と定めています。



弁財天



弁財窟入口

新田義貞の鎌倉攻めで、どの程度の被害を受けたか判らないが、康永元年足利尊氏が本堂を再建し観音像に金箔を施し、明徳三年足利義満が観音像の光背を修めたと伝えられている。以後も時の権力者、北條氏康、秀吉、家康などのこの寺への関与の話が残っている。江戸時代には、長谷観音、極楽寺、七里ヶ浜、江ノ島への行楽(信仰)コースとして人気があった。弁財窟には、弁財天と十六童子の磨崖仏があるが、寺伝では弘法大師の作だそうである。大黒天が祀つてあるので長谷寺は鎌倉七福神の一つになっている。



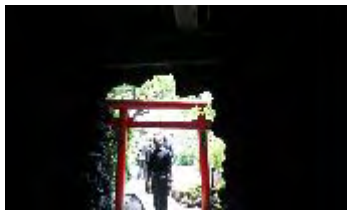
和み地藏

今回昼食は各自持参したお弁当を長谷寺の藤棚の下にある休憩所です。おにぎりも結構おいしく頂きました。2面に載せているパノラマ写真のように鎌倉の街や海の眺めはすばらしいものでした。気温はかなり高くてしんどかったです。体が心地よかったです。

昼食



弁財窟の暗闇にある十六童子(弘法大師の作らしい)



弁財窟出口



藤棚の下で昼食休憩



藤棚の下で昼食



光則寺山門入口

この寺は日蓮・日朗に深いつながりがある。日蓮は「立正安国論」を執筆北條時頼に届ける役を、時頼の近臣だった宿谷光則に託したといわれる。日蓮が龍ノ口で処刑されると決まった時、日朗は捕らえられて光則の屋敷裏山の土牢に入れられた。その管理を任されていた光則は、やがて日蓮・日朗に引かれ法華経の信者になり、自分の屋敷を寺にして、日朗を開山に、父の名、行時を寺号とした。それがこの行時山光則寺である。

光則寺



ニオイバンマツリ



土牢の内部



日朗が入られた土牢



光則寺

寛元二年僧浄光が集めた浄財で最初の木造大仏が完成するが、宝治元年大風で倒壊、建長四年に現在の青銅大仏が鑄造され、大仏殿も出来た。その後大仏殿は二度の大風で倒れ、その都度復興されたが、明応四年の津波で流されて以後は、露座の大仏として今に至っている。この大仏を鑄造した人は、丹治久友とか大野五郎右衛門などといわれているが、はっきりした記録はない。関東大震災の後修理が行われた時、頬と顎の部分からわずかな金箔が見つかり、金箔が全身を覆っていたと思われるようになった。大仏殿の中で金色に輝く大仏様は、さぞ神々しいものであっただろうと思われる。世界遺産登録に向けて大仏殿の基礎の発掘調査は、既に終わっているが、それによると外周の柱基礎は、間口四十四メートル・奥行四十二・五メートルで、軒先の大きさは間口五十八・五メートル・

高德院



阿弥陀如来(大仏)

奥行四十二・五メートルの大きさがあつたと推定されている。瓦の出土が全く無く屋根の形が判らない。大仏の寸法(総高(台座共)十三・三五メートル・仏身十一・三二メートル、顔の長さ二・三五メートル、目の長さ一・〇メートル、耳の長さ一・九〇メートル、口の幅〇・八二メートル、膝の間九・一〇メートル、親指の周り〇・八五メートル、白毫(高さ〇・一五メートル・直径〇・一八メートル)、重量百二十一ト。遠近法の法則から、五メートル位離れて拝むと、釣り合いがとれた形に見える。この大仏が立ち上がって歩いたとしたら、東京まで一時間位で行ける計算になるそうである。



大仏の瞳を確認



朝鮮様式の屋根瓦の建物



大仏の裏手にある建物 屋根瓦に朝鮮の様式

物の瓦が気になった。雨樋が無く瓦が斜めに取り付けられている。朝鮮に行くときほとんどがこのような瓦屋根だそう。



急斜面



急な坂道木の根っこが頼り



最初の急な階段

大仏から大仏トンネルまで三百メートルは平坦、続く三百五十メートルはかなり急な階段と階段状の登り、尾根道の登り下りで約二百五十メートル、急な登り約二十メートル、普通の尾根道約三百五十メートル、木の根が足場になる急な登り三十メートル、残りの尾根道三十メートル、生活道路、公園道路約八百メートルで日野俊基の墓に至る。

大仏ハイキングコース



化粧坂

俊基は鎌倉時代の終りに近い頃、後醍醐天皇を助けて鎌倉幕府を倒そうとした公家の一人である。(正中の変)謀が事前にられて、京都で捕らえられ一度は許されたが再び捕まり鎌倉送りとなり、刑場であったこの葛原岡で処刑された。俊基は恨みをこめた辞世の句を残し、この岡に露と消えたが、翌元弘三年五月二十二日には新田義貞の大軍が、この岡

日野俊基の墓



日野俊基の墓

を突破して鎌倉に攻め込み鎌倉幕府を倒した。明治になり功臣であったとして、墓が整備され葛原岡神社に神として祀られた。神社は現在由比が浜地区の鎮守として祀られている。この化粧坂は鎌倉七切通しの一つで、今も昔の面影を残している切通しで国の史跡になっている。この坂の名の由来は、ここで平家の大将の首を化粧して首実検したからとか、この坂のあたりに町家があつて化粧した女たちがいたからとか、木がよく生い繁っていたので木生えとか、氣勢といわれたことから来ているとも言

化粧坂

われている。この道は藤沢から武蔵方面に通ずる重要な道で、元弘三年五月新田義貞が鎌倉を攻めたとき、この化粧坂に軍の主力を向けたので、激戦地になった。

源氏山



源氏山頼朝像の前で記念写真

初めは武庫山といわれ、亀ヶ谷の中央にあり、景色の良い山であるので、亀ヶ谷山とも呼ばれた。源頼義・義家親子が奥州征伐の時、この山上に源氏の白旗を立てたことから、源氏

銭洗弁財天 宇賀福神社

この銭洗弁財天には、次のような話が伝えら

れている。頼朝が幕府を開いてから日夜神仏に祈つて人々を救おうとしていた、巳の年185年巳の月巳の日の夜中一人の老人が夢枕に立って「西北の方にかくれ里という谷があり、きれいな泉が湧いている、これは福の神が神仏に供えている泉である。これをお前に授けるから、この水を飲んで神仏を供養せよ、そうすればお前の命令も行き渡り、天下は平和に栄えるであろう。自分はこのかくれ里の主の宇賀福神である」と言つて消えた。翌日家来をやつてその場所を探らせると、夢で知らされた通りであつたので、頼朝は洞窟を掘らせて社を建て、宇賀福神を祀つた。その結果世の中はうまく治まった。その後執権北條時頼は、頼朝の志を継いでこの福の神を信仰し、辛巳の日を選んで人々を参拝させ、銭をこの水で洗い清めればきれいな福銭となり、その銭は百倍の力を現し一家は栄え子孫は安泰であろうといつて、自ら銭を洗つ



下の水神宮



銭洗弁財天で説明聞く

て折つた。人々もこれに習つて銭だけでなく、金銀財宝や証書までこの水で洗い清めるようになった。その霊験があらたかだつたので、いつとはなしに銭洗いの水と呼ぶようになり、鎌倉五名水の一つになり、巳の縁日には参拝者が非常に多くなつた。弁天のご神体の宇賀福神は水の中で、体は蛇、頭は老人の形をしているそうである。



銭洗弁財天



洞窟の中天井は空が見える



宇賀福神社



上の水神宮

鎌倉駅西口に予定通り四時十分に全員無事到着。ありがとうございます。(63期渡辺克彦)